

# 古文書を読む会学習記録

作成日 平成27年 1月 9日

<b>開催日</b>	平成27年 1月 8日	<b>時 間</b>	10:00～12:00
<b>場 所</b>	金沢公会堂3号室	<b>出席人数</b>	14名
<b>講 師</b>	真田雅行氏	<b>作成者</b>	鈴木浩士
<b>テーマ</b>	第一学習 永嶋家文書①		
<b>概要</b>	<p>永嶋家の文書、「異国船取押方日記」を読む。</p> <p>この日記は、巳年2月18日、郡代所より、“異国船を発見したのですぐに来てほしい”と書状が届いたことが発端。巳年は弘化2年(1845年)と推定。</p> <p>18日申の下刻、御用状が到来。早速支度して戌の下刻、御役所へ参着を届出、観音崎詰所へ馳つけ、門前の御船奉行詰所に行つて模様を承った。更に御門内で士大将多加谷左近殿、武者奉行小河原左宮殿の御陣所でも承った。その内容は“洲の崎の沖合に見えたが、見届けは難しく物見の船々は追々帰着した”との事であった。・・・24日、御政事(御公議)より差配頭取3人が招呼され、異国船を見届けるために当所より3艘、三崎より2艘、浦賀奉行所より3艘、下総守殿より5艘を差し出し、遠海まで出かけて異国船を見付け次第乗り移り、内海へ穏便に引き付けるようにと仰せ聞かされた。・・・25日、布良村に船掛りして名主の藤右衛門方で異国船の模様を聞いたところ、“17日に乙浜遠沖に見えた”とのこと。昼食後、日和見していたら少々雨風が静まったので天津に向けて乗り出した。しかし、俄かに大雨、烈風になりやっと白浜村の内、宇嶋崎浦に船掛りできた。ここで下総守様御使番検使、澤辺殿を出迎えた。今日は大風波のため出帆出来ない为上陸して、同所宇原田の名主代組頭源兵衛方に止宿していた。そこに澤辺殿が挨拶に来られたので、近況を尋ねたところ、異国船に乗っていた日本人を近くで漁労していた船に乗せ、2月17日上総国守屋村へ2人、南朝夷村三四郎漁船へ2人乗移し、都合4人を上陸させた由。同19日には房州乙浜字新湊へ異国船が近寄り、既に所の者共が見物していて着服の色合が分かる程であったが、その内に沖の方へ行ってしまった。同20日、異国船が又々岸から24, 5町沖に見えたのでかねてから渡されていた横文字の書付を持って澤辺殿が出船した。しかし風波が荒れて異国船に近寄れず、時が経ってしまううち、検使船が出船したことを異人が見掛けてしまったのか、直ぐに船を沖に向けて走り去ってしまった。</p>		
	平成27年1月22日 10:00～12:00	於:金沢区民活動センター	
	第二学習 ジョン万次郎帰朝記事①		